DENON

プリメインアンプ

PMA-1500SE

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくご使用ください。
- お読みになったあとは、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は出張修理対象製品です。
  詳しくは、「保証と修理について」（☞11 ページ）をご覧ください。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因になります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因になります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

高温注意

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

すぐに電源コンセントからプラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切っても電源コンセントからは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜くことができるようにしてください。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

必ず実施

禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

本機の特長

繊細さと力強さを両立する UHC-MOS シングルプッシュプル回路

最小単位の増幅素子で通常のバイポーラトランジスタの 3 ～10 倍の電流供給能力を持ち、繊細な表現力とハイパワーを両立します。ソリストの消え入るようなピアニッシモからホールを揺るがすフルオーケストラの大音響まで、アーティストの情感をバランス豊かに描ききります。

UHC-MOS シングルプッシュプル回路の特長を最大限に引き出す電源回路

従来比 1.5 倍の電流容量を持つショットキーバリアダイオードと、カスタムブロックタイプコンデンサの組み合わせにより、各部に安定した電流の供給を実現しています。

リモートコントロール対応大型電動ボリューム

本機のボリュームには DENON プリメインアンプの上位機種と同じ大型電動ボリュームを採用しています。大型電動ボリュームの、音質に優れた抵抗体とマルチブラシ形状により、耐振動性能が向上し、よりピュアな信号伝達を実現しています。

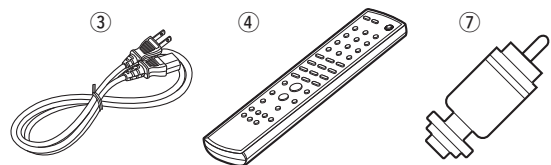
共振制御構造

大型ヒートシンクの各々の放熱フィンの形状を変えて共振点の分散化を図っています。また、パワーアンプブロックの低重心化を実現することで、振動が音質に与える影響を徹底して抑えています。

付属品について

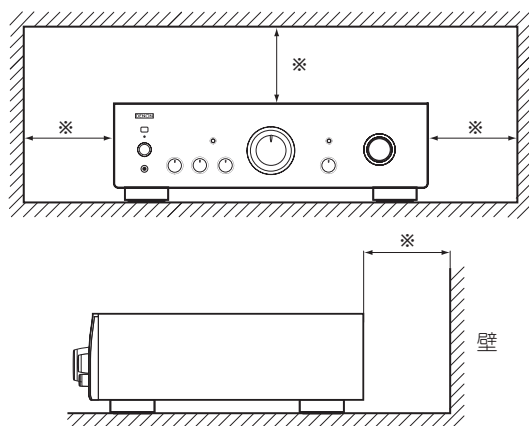
ご使用の前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書）…………………………………1
② 製品のご相談と修理･サービス窓口のご案内 ……………1
③ 電源コード【本機専用】（長さ：1.8m）………………1
④ リモコン（RC-1143）………………………………1
⑤ 単4乾電池……………………………………………2
⑥ 保証書…………………………………………………1
⑦ ショートピンプラグ（お買い上げ時は
リアパネルのPHONO端子に装着しています）…………2

③ ④ ⑦

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他の AV 機器などとは十分に離して設置してください。

※ 30cm以上離す

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話を使用すると、雑音（ノイズ）が入ることがあります。携帯電話は本機から離れた位置でお使いください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1 ～ 2 時間放置してから使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、やわらかい布を使用して軽く拭き取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

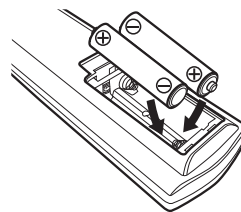
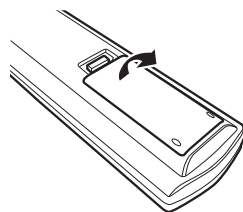
リモコンについて

このリモコンでは、DENON 製の CD プレーヤーとチューナーの操作ができます。

- 一部操作ができない製品もあります。

乾電池の入れかた

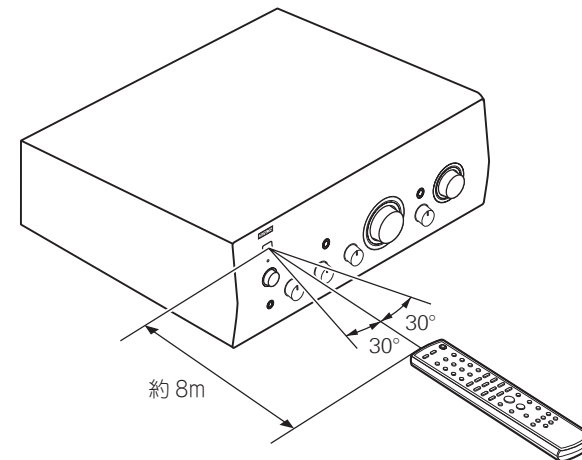
① 裏ぶたを矢印の方向に引き上げる。

② 単4形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示とおりに入れる。

③ 裏ぶたを元のとおりにする。

ご注意

- リモコンには単 4 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示どおりに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。

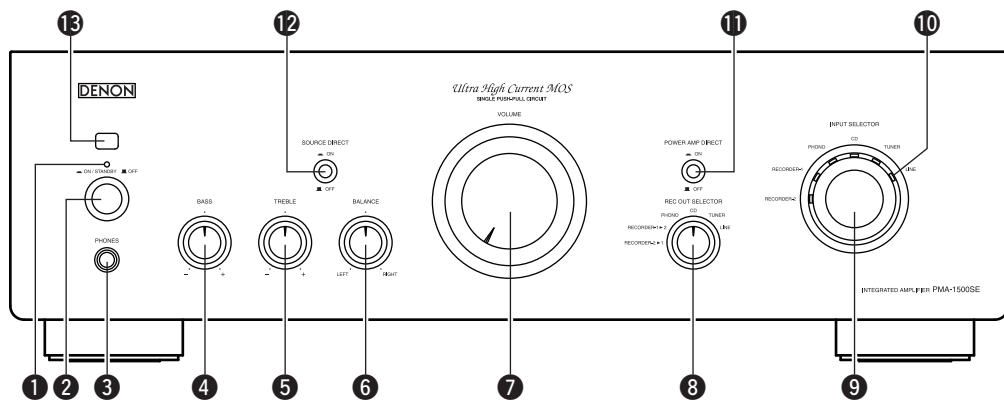
リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。

ご注意

リモコン受光部に直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなる場合があります。

各部の名前とはたらき

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページを参照してください。

フロントパネル

❶電源表示……(7,9)
本機の状態により次のように変わります。
- 電源オン後数秒間： 赤色（点滅）
- 電源オン時： 緑色
- ミューティング時： 赤色（点滅）
- スタンバイ時： 赤色
- 電源オフ時： 消灯
- エコスタンバイ時： 消灯

❷電源スイッチ……(7)
（▁ON/STANDBY ■OFF）

❸ヘッドホンジャック（PHONES）……(8)

❹低音調節つまみ（BASS）……(7,8)

❺高音調節つまみ（TREBLE）……(7,8)

❻バランス調節つまみ（BALANCE）……(7,8)

❼音量調節つまみ（VOLUME）……(7,8)

❽録音出力切り替えつまみ……(8)
（REC OUT SELECTOR）

❾入力切り替えつまみ……(8)
（INPUT SELECTOR）

❿入力表示……(8)

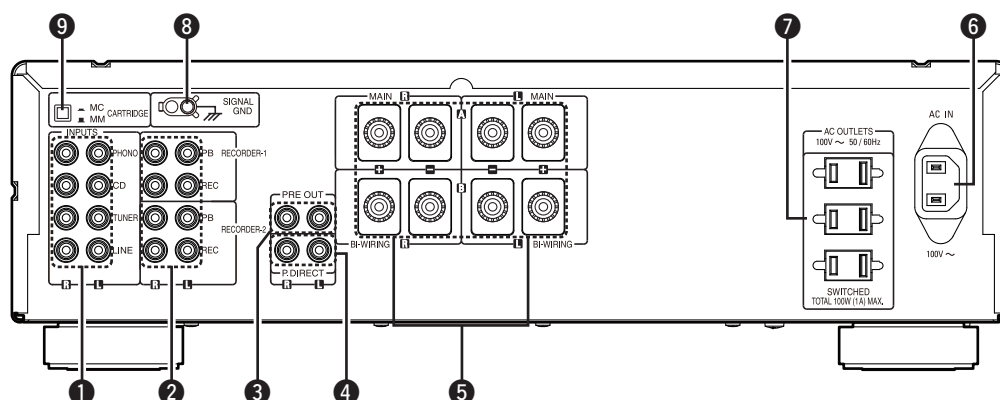
⓫パワーアンプダイレクト スイッチ……(9)
（POWER AMP DIRECT）

⓬ソースダイレクト スイッチ……(7,8)
（SOURCE DIRECT）

⓭リモコン受光部……(2)

ご注意

- ❹低音調節つまみ、❺高音調節つまみ、❻バランス調節つまみはソースダイレクトスイッチが“■OFF”のときに調整できます。

リアパネル

❶入力端子（INPUTS）……(6)

❷録音入出力端子……(6)
（RECORDER-1、RECORDER-2）

❸プリアウト端子（PRE OUT）……(9)

❹パワーアンプダイレクト端子……(9)
（POWER AMP DIRECT）

❺スピーカー端子……(5,6)
（SPEAKER SYSTEMS）

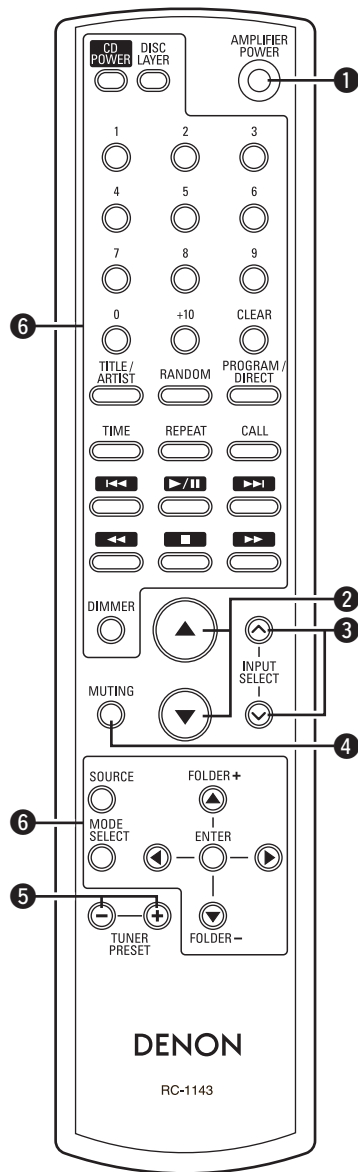
❻ACインレット（AC IN）……(7)

❼ACアウトレット（AC OUTLETS）……(7)

❽アース端子（SIGNAL GND）……(6)

ご注意

この端子は安全アースではありません。

❾カートリッジ切り替えスイッチ……(6)

リモコン

❶電源ボタン ……………………………… (7)
（AMPLIFIER POWER）

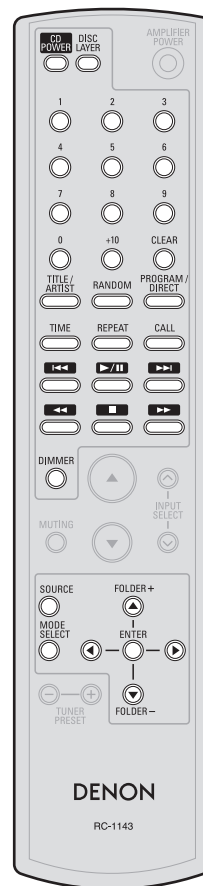
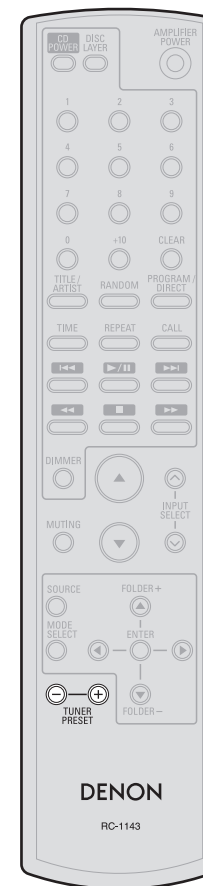
❷音量調節ボタン ……………………… (7,8)
（VOLUME ▲/▼）

❸入力ソース選択ボタン ………………… (8)
（INPUT SELECT）

❹ミューティングボタン ………………… (8)
（MUTING）

❺チューナー操作ボタン

❻CDボタン

- このリモコンでは、DENON 製品の CD プレーヤー／チューナーを操作することができます。
- ご使用の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 一部操作ができない製品もあります。

❑CD 操作

ボタンの名称
CD POWER
DISC LAYER
0 - 9, +10
CLEAR
TITLE/ARTIST
RANDOM
PROGRAM/DIRECT
TIME
REPEAT
CALL
⏮, ⏭
▶/⏸
■
◀◀, ▶▶
DIMMER
SOURCE
MODE SELECT
▲ (FOLDER +), ▼ (FOLDER –), ◀, ▶
ENTER

❑チューナー操作

ボタンの名称
TUNER PRESET +/–

基本接続

ご注意
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくＬとＬ、ＲとＲを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルを一緒に束ねないでください。雑音の原因になります。
- PHONO 端子は非常に感度の高い端子ですので、レコードプレーヤーを接続しないで音量を上げないでください。接続せずに音量を上げた場合、“ブーン”という音がスピーカーから出ることがあります。
- 本機にレコードプレーヤーを接続しない場合は、お買い上げ時にPHONO 端子に装着しているショートピンプラグをそのまま差しておいてください。

準備

接続に使用するケーブル

ご使用になる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

接続する機器について

SA（スーパーオーディオ）ソース再生時のご注意

SA ソース（DVD オーディオ、スーパーオーディオ CD などの可聴帯域を越える高域成分を含んでいるソース）に対応していないスピーカーを接続する場合は、プレーヤー（DVD プレーヤー、スーパーオーディオ CD プレーヤーなど）の特性をスピーカー（またはアンプ）に合わせて設定してください。
SA ソースの再生時に音量を上げすぎると、スピーカーを損傷することがあります。プレーヤーの設定については、プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

スピーカーの接続のしかた

スピーカーケーブルを接続する

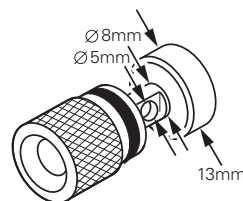
本機とお使いになるスピーカーの左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認し、同じ極性を接続してください。スピーカー端子はＹラグの接続にも対応しています。

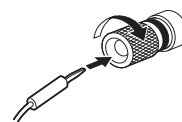
1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるなど端末処理をおこなう。

2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

4 スピーカー端子を右に回してしめる。

スピーカー端子の寸法

バナナプラグの場合

端子を右に回して締め付けてから挿入する。

ご注意
- 接続の際、スピーカーケーブルの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーケーブルの芯線どうし、および芯線がリアパネルやねじに接触しないようにご注意ください。故障の原因となります。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

スピーカーのインピーダンスについて

スピーカーの使用状況に応じてスピーカーのインピーダンスは次の範囲のものをお使いください。

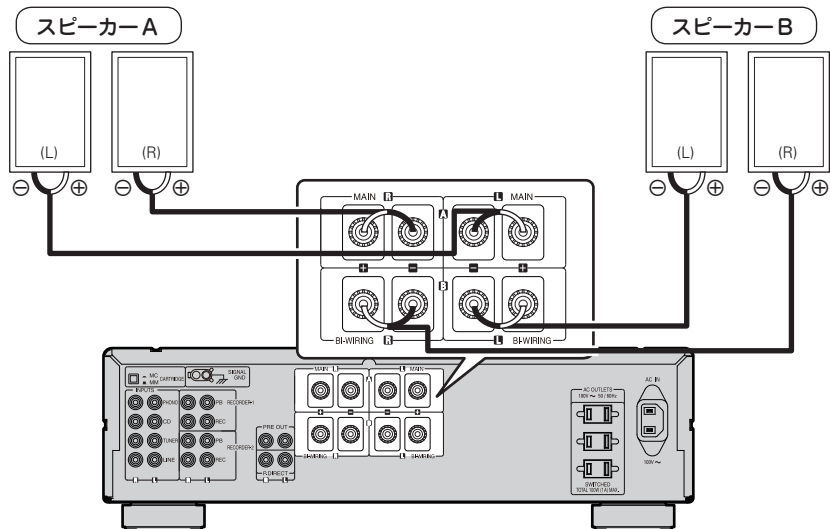
接続するスピーカー端子	使用するスピーカーのインピーダンス
A	4～16 Ω
B	4～16 Ω
A と B の両方	8～16 Ω
バイワイヤリング接続	4～16 Ω

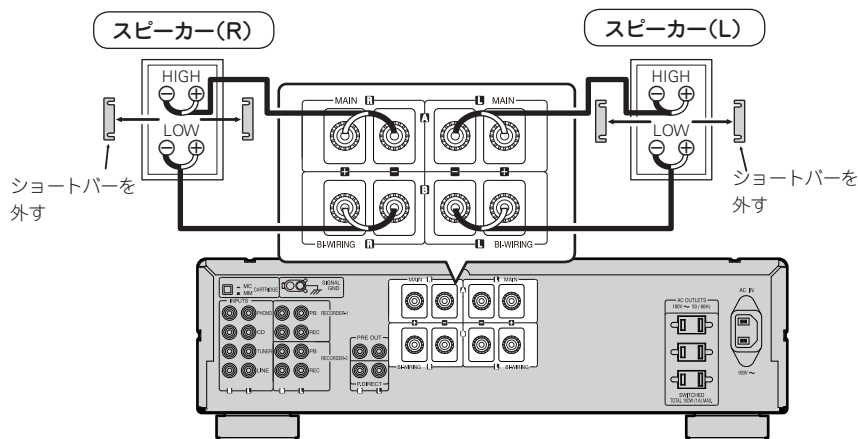
保護回路について

次のときに保護回路が動作します。
- スピーカーケーブルの芯線がリアパネルやねじに接触したり、スピーカーケーブルの＋、－側が接触しているとき
- 本機の周囲の温度が異常に高くなったとき
- 長時間大出力で使用して内部の温度が上昇したとき

保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が赤色に点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。
また、本機の温度が極端に上がっている場合は、本機が冷えるのを待ち、周囲の通風状態を良くしてください。そのあと、もう一度電源コードを入れ直してください。
本機の周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず、保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、弊社の修理相談窓口にご連絡ください。

スピーカーの接続

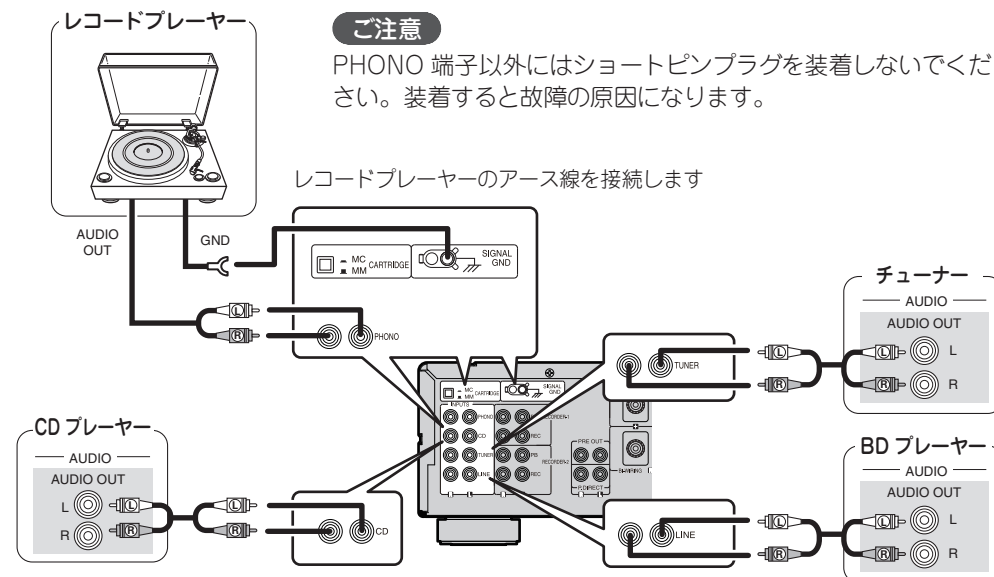
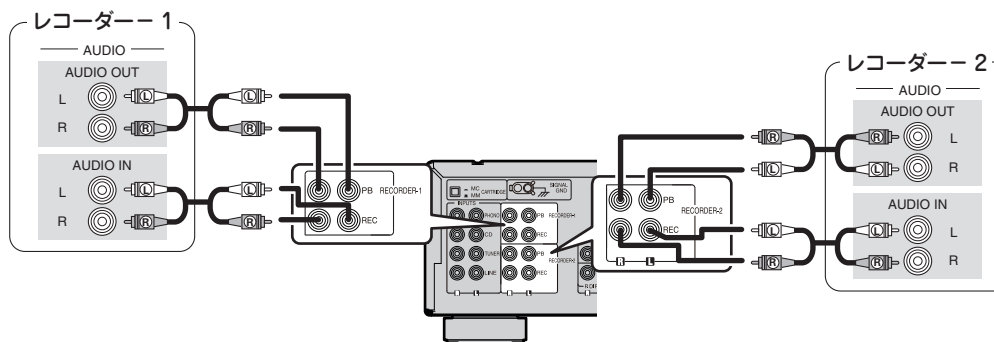
- SPEAKER A 端子と B 端子からは同じ信号を出力します。
- スピーカーを 1 組のみ接続するときは SPEAKER A/B 端子のどちらかに接続してください。

バイワイヤリング接続

- バイワイヤリング接続に対応しているスピーカーの高域用入力端子にスピーカー A（または B）を、低域用入力端子にスピーカー B（または A）をそれぞれ接続してください。
- この接続では高域用スピーカーユニットと低域用スピーカーユニット間の信号の干渉の影響を低くおさえることができるため、高品位な再生をお楽しみいただけます。

再生機器の接続のしかた

使用するレコードプレーヤーのカートリッジの種類に合わせて、カートリッジ切り替えスイッチを押して MM（■）または MC（▬）に切り替えてください。

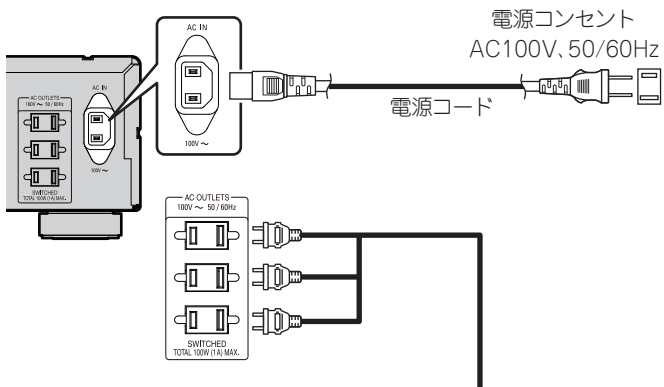
- PHONO 入力端子にはショートピンプラグが付属しています。レコードプレーヤーを接続する際は外してください。外したショートピンプラグは大切に保管してください。
- アース線を接続すると雑音が出る場合があります。このような場合、アース線は接続しないでください。

ご注意

PHONO 端子以外にはショートピンプラグを装着しないでください。装着すると故障の原因になります。

録音機器の接続のしかた

ご注意

- 録音出力（REC）端子にショートピンプラグを装着しないでください。故障の原因になります。

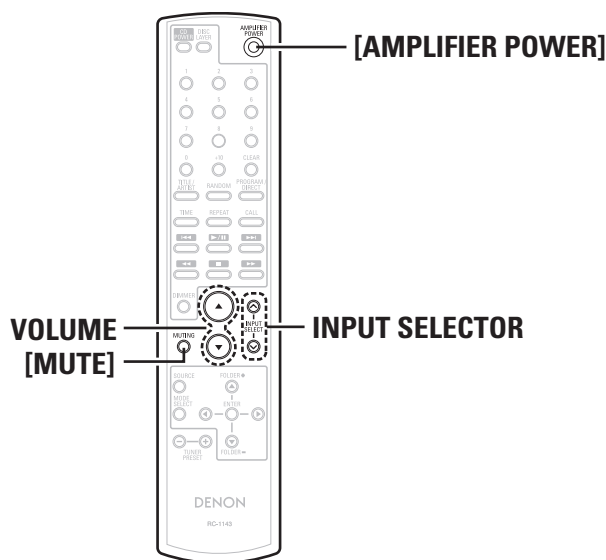
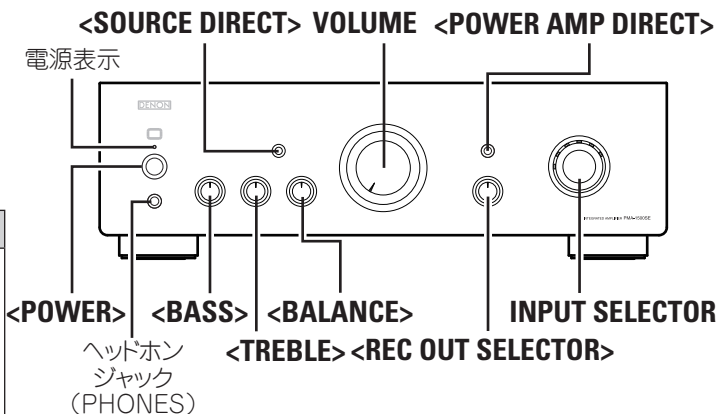
電源コードの接続のしかた

すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。

ACアウトレットへの接続について

- 外部のAV機器に電源を供給するコンセントです。
- 消費電力が合計で100W（1A）までのAV機器を接続することができます。
- 本機の電源に連動しています。"オン"のときは電源を供給し、"スタンバイ"のときは、電源を供給しません。

ご注意

- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- ACアウトレットへは、AV機器の電源プラグを差し込んでください。ドライヤーなどAV機器以外の電源としては使用しないでください。

基本操作

再生前の準備

1 **VOLUME で音量を最小にする。**

2 **<SOURCE DIRECT> を"■OFF"にする。**

3 **<BASS>、<TREBLE> および <BALANCE> を中央の位置にする。**

4 **<POWER> を押して電源を入れる。**
- 電源表示が数秒間赤色に点滅したあと、緑色に点灯します。

電源を切る

1 **[AMPLIFIER POWER] を押す。**
- 電源がスタンバイ状態になります。

2 **<POWER> を押す。**
- 電源表示が消灯して、電源が切れます。

ご注意

電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、**<POWER>** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

再生のしかた

1 **INPUT SELECTOR で再生するソースを選ぶ。**
選択したソースの入力表示が点灯します。
【選択できるソース】
RECORDER-2 | RECORDER-1 | PHONO | CD | TUNER | LINE

2 **選択したソースを再生する。**

3 **VOLUME で音量を調節する。**

❑音質を調節する

- **<BASS>** 低音を調節する。
- **<TREBLE>** 高音を調節する。
- **<BALANCE>** 左右の出力バランスを調節する。

❑ソースダイレクトで再生する

<SOURCE DIRECT> を"▁ON"にすると、音声信号が音質調節回路（BASS/TREBLE/BALANCE）を通らないため、より原音に忠実な再生ができます。

<SOURCE DIRECT> を押す。

音質の調節をおこなうときは **<SOURCE DIRECT>** をオフにしてください。

❑音声をミュートする

音声の出力をとめ、消音することができます。

[MUTE] を押す。

- 本体の電源表示が赤色に点滅します。
- もう一度押すと、音が出ます。

ヘッドホンを使って聴く

ヘッドホンのプラグをヘッドホンジャックへ差し込みます。

- ヘッドホンプラグを差し込むとスピーカー出力は自動的に切れますので、スピーカーから音は出ません。
- ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。

録音のしかた

1 **<REC OUT SELECTOR> で録音するソースを選ぶ。**

2 **録音機器を録音状態にする。**

3 **録音するソースの再生をはじめる。**

コピーのしかた

1 **<REC OUT SELECTOR> で"RECORDER-1 ▶ 2"（または"RECORDER-2 ▶ 1"）を選ぶ。**
【選択できるソース】
RECORDER-1 ▶ 2 | RECORDER-2 ▶ 1

- "RECORDER-1" から"RECORDER-2" にコピーするときは"RECORDER-1 ▶ 2"を選びます。
- "RECORDER-2" から"RECORDER-1" にコピーするときは"RECORDER-2 ▶ 1"を選びます。

2 **RECORDER-2（または RECORDER-1）端子に接続した機器を録音状態にする。**

3 **RECORDER-1（または RECORDER-2）端子に接続した機器の再生をはじめる。**

ご注意

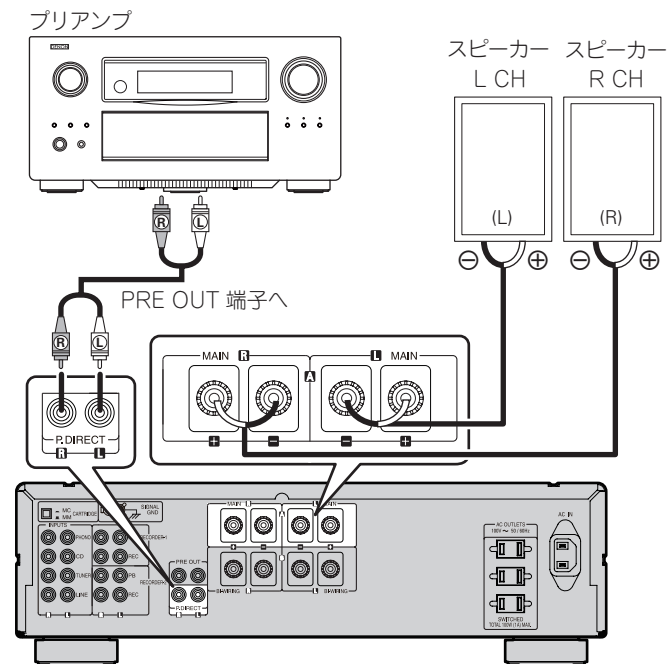
録音中に **INPUT SELECTOR** を操作すると、音声が途切れて録音されたり、雑音が録音されることがあります。

応用接続

パワーアンプダイレクト端子の接続

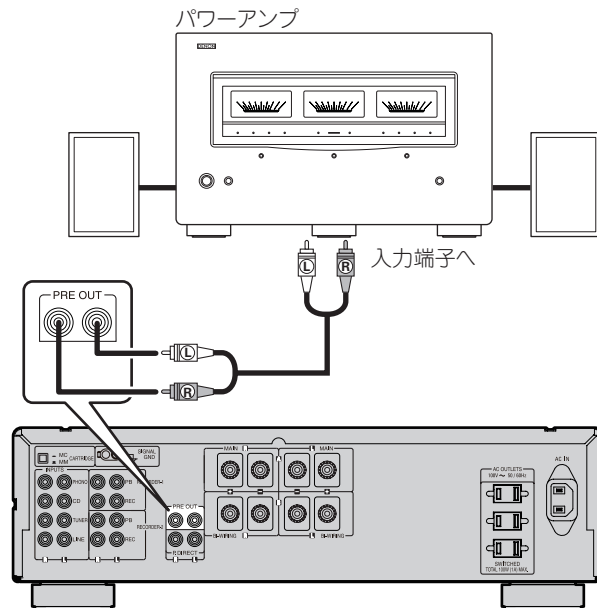
プリアンプをお持ちの場合は、図のように接続すると本機をパワーアンプとして使用できます。

- **POWER AMP DIRECT** スイッチを"▂ON"にすると、パワーアンプダイレクト端子に接続した機器を再生します。**INPUT SELECTOR** による入力ソースの選択はできません。
- **POWER AMP DIRECT** スイッチを"▄OFF"にすると、**INPUT SELECTOR** で選んでいるソースを再生します。

プリアンプの操作については、お使いになるプリアンプの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- **POWER AMP DIRECT** スイッチを"▂ON"にすると、本機の音量、バランス、トーンの調節は無効になります。それらの調節は本機に接続しているプリアンプでおこなってください。

PRE OUT 端子の接続

パワーアンプをお持ちの場合は、図のように接続すると、本機をプリアンプとして使用できます。
スピーカーシステムの接続に関しては、ご使用になるパワーアンプの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- パワーアンプダイレクト機能とプリアウト出力は同時におこなえません。
- プリアウト端子にショートピンプラグを装着しないでください。故障の原因になります。

応用操作

エコモードの設定のしかた

エコモードがオンのときはスタンバイ中の電源表示が消灯し、消費電力をより低くおさえることができます。

リモコンの AMPLIFIER POWER ボタンを５秒以上押す。

- エコモードのオンとオフが切り替わります。
- スタンバイ中の電源表示が次のように切り替わります。

- エコモードの設定操作中は電源表示が赤色に点滅します。

- 電源がオンのときにエコモードの設定操作をおこなうと、設定完了と同時に本機はスタンバイになります。
- エコモードの初期設定はオフです。

用語の解説

M

MM/MC カートリッジ切り替え

レコードプレーヤーに取り付けるカートリッジには、MM 型（Moving Magnet）と、MC 型（Moving Coil）の 2 種類があります。

それら 2 種類の出力レベルはそれぞれ異なるため、本機に搭載しているフォノイコライザーアンプの設定を、お使いのカートリッジの種類に合わせて切り替える必要があります。設定の切り替えはリアパネルのカートリッジ切り替えスイッチでおこないます。

サ

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで、Ω（オーム）という単位であらわします。

この値が小さいほど大きな出力が得られますが、アンプにかかる負担は増えます。本機が対応しているインピーダンスのスピーカーをお使いください。

ソースダイレクト

入力された音声信号を、音質調節回路（低音／高音／バランス）を通さずに出力するため、より原音に忠実な再生がおこなえます。

ハ

バイワイヤリング接続

1 台のスピーカーに対してスピーカーケーブルを 2 本使い、高域と低域のそれぞれの信号を別々に伝送する接続方法です。

この接続では広域用スピーカーユニットと低域用スピーカーユニット間の信号の干渉の影響をおさえることができるため、高品位な再生をお楽しみいただけます。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧などの異常が起きたときに、本機の電源をスタンバイ状態にする機能です。過負荷や過電圧から本機内部の回路の破損を防ぎます。

故障かな？と思ったら

❏ **各接続は正しいですか**
❏ **取扱説明書に従って正しく操作していますか**
❏ **スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

症　状	原　因	対　策	関連ページ
電源を入れても、電源表示が点灯せず音が出ない。	• 電源コードプラグの差し込みが不完全である。	• 電源コードプラグの差し込みを点検してください。	7
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路が働いています。	• 一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れなおしてください。 • 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	5 Ⅱ，2
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機が対応しているインピーダンスのスピーカーを使用していない。 • スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路が働いています。	• 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • 電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、もう一度接続し直してください。	5 5
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機のアンプ回路が故障しています。	• 電源を切り、弊社の修理相談窓口までご連絡ください。	—
電源表示は点灯するが、音が出ない。	• スピーカーケーブルの接続が不完全である。 • 入力切り替えつまみの位置が不適当である。 • 音量調節つまみが最小になっている。 • 入力ケーブルの接続が不完全である。	• 確実に接続してください。 • 正しい位置に切り替えてください。 • 適当な位置まで回してください。 • 確実に接続してください。	6 8 8 6
左右のスピーカーの片側だけ音が出ない。	• スピーカーケーブルの接続が不完全である。 • 入力ケーブルの接続が不完全である。 • 左右のバランスがずれている。	• 確実に接続してください。 • 確実に接続してください。 • バランス調節つまみを正しく調節してください。	6 8 8
入力ソース切り替えができない、音が出ない。	• パワーアンプダイレクトスイッチがオンになっている。	• パワーアンプダイレクトスイッチをオフにしてください。	9
ステレオのときに、各楽器の位置が左右入れ替わっている。	• スピーカーや入力ケーブルの接続が左右逆になっている。	• 左右の接続を確かめてください。	6
レコード再生のときに、再生音と一緒に“ブーン”という音が出る。	• プレーヤーのアース線が外れている。 • PHONO 端子の接続が不完全である。 • プレーヤーの近くにテレビや AV 機器などがあるため、影響を受けている。	• 確実に接続してください。 • 確実に接続してください。 • 設置位置を変えてみてください。	6 6 —
レコード再生のときに音量を大きくすると再生音と一緒に“ワーン”という音が出る。（ハウリング現象）	• プレーヤーとスピーカーとの距離が近すぎる。 • スピーカーの振動が床を通してプレーヤーに伝わっている。	• できるだけ離して設置してください。 • スピーカーの振動をクッションなどで吸収させてください。 • プレーヤーにインシュレーターが付いていないときには、市販のオーディオインシュレーターを使ってください。	— — —
レコード再生のときに音がひずんで聞こえる。	• 針圧が適当でない。 • 針先にゴミがついている。 • カートリッジの不良。	• 正しい針圧に調整してください。 • 針先を確かめてください。 • カートリッジを交換してください。	— — —

保証と修理について

❑保証書

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については『製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内』に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❑修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の『製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内』に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❑依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名…………取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号………保証書または製品背面（または底面や側面）に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

❑補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

❑お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❑ パワーアンプ部

定格出力：	２チャンネル駆動（CD → SP OUT）	
	70W ＋ 70W（負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.07%）	
実用最大出力：	140W ＋ 140W（負荷 4 Ω、1kHz、T.H.D 0.7%、JEITA）	
全高周波ひずみ率：	0.01%（定格出力－ 3dB 時）、負荷 8 Ω、1kHz	
出力端子：	スピーカー A または B	：負荷 4 ～ 16 Ω
	スピーカー A ＋ B	：負荷 8 ～ 16 Ω
	バイワイヤリング	：負荷 4 ～ 16 Ω
	ヘッドホン / ステレオヘッドホン適合	

❑ プリアンプ部

プリアウト出力：		：定格出力　0.84V
イコライザーアンプ出力（REC OUT 端子）：		：定格出力　150mV
入力感度 / 入力インピーダンス：		
	PHONO（MM）	：2.5mV/47k Ω
	PHONO（MC）	：200µV/100 Ω
	CD、TUNER、LINE、	
	RECORDER-1、RECORDER-2	：125mV/45k Ω（ソースダイレクトオフ）
		125mV/24k Ω（ソースダイレクトオン）
	POWER AMP DIRECT	：0.84V/47k Ω
ＲＩＡＡ偏差：	PHONO	：20Hz ～ 20kHz ± 0.5dB

❑ 総合特性

ＳＮ比：	PHONO（MM）	：89dB（入力端子短絡、入力信号 5mV 時）
（A ネットワーク）	PHONO（MC）	：74dB（入力端子短絡、入力信号 0.5mV 時）
	CD、TUNER、LINE	
	RECORDER-1、RECORDER-2	：108dB（入力端子短絡時）
周波数特性：	5Hz ～ 100kHz（0 ～－ 3dB）	
トーン・コントロール：	BASS（低域）	：100Hz ± 8dB
	TREBLE（高域）	：10kHz ± 8dB

❑ 総合

AC アウトレット：	SWITCHED（連動）3 個	：合計容量 100W
電源：	AC 100V 50/60Hz	
消費電力：	295W（電気用品安全法による）	
	0.2W（スタンバイ時）	
	0.1W（エコスタンバイ時）	
最大外形寸法：	434（幅）× 134（高さ）× 410（奥行き）mm	
質量：	15.5 kg	

❑ リモコン (RC-1143)

リモコン方式：	赤外線パルス式
電源：	DC3V 単 4 形（R03）乾電池 2 本使用
外形寸法：	49（幅）× 220（高さ）× 21（奥行き）mm
質量：	110g（乾電池を含む）

※JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

索引

☞ あ行　ページ

☞ か行　ページ

☞ さ行　ページ

☞ た行　ページ

☞ な行　ページ

☞ は行　ページ

☞ ら行　ページ

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1
D&M ビル 3F

お客様相談センター　TEL：044-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 〜 12：00、12：45 〜 17：30
（弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in Japan　5411 10455 107D